SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	新井 翔	学校名	鎌ケ谷市教育委員会
実施学年	5学年	教　科	国語
単元名	自然保護のあり方について自分の考えを深め、意見文を書こう 教材：世界遺産 白神山地からの提言―意見文を書こう （「ひろがる言葉 小学国語 五下」教育出版）		

≪学びを深めたいポイント≫

一人一人の意見を育てるために必要なことは異質な他者との対話である。しかし、これまでの意見文指導は、一方通行的で相手のことは想定せず、構成の型の指導にとどまっていることが多い。

そこで本実践では、一方通行的であった意見文指導を改め、異質な他者との対話性を上げて、相手を想定して情報や資料を吟味し、友達の意見や考えを踏まえながら自分の論を発展させる意見文指導の実現を目指す。そのために「継続的に議論が行える対話的な場」を作る。これまでは意見文を一度書いたきりで終えてしまうことが多いが、それでは自分の論をより強化しようという意欲は湧かない。情報の収集、内容・構成の検討といった学習過程の中に、児童が継続的に意見のやり取りを行えるような場を作り、対話性を上げることが必要であると考える。

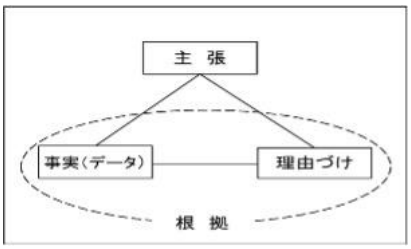
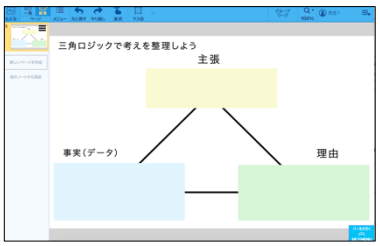
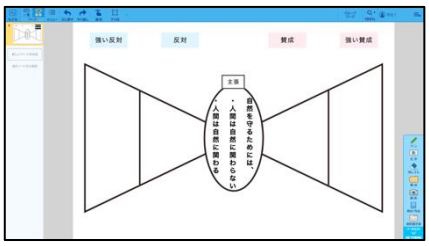
≪SKYMENU 活用のポイント≫

「継続的に議論が行える対話的な場」として、「気づきメモ」を活用した校内投書を行う。

校内投書とは一般の新聞の中にあるような投書を校内で行うものである。授業で毎時間、テーマについて自分の意見を書き、それを投稿させる。ただし、投稿するかしないかは児童が自分で判断する。投稿された意見文を互いに読み合い、自分とは違う意見や同じ意見でも理由付けが違うなど、多様な考えに触れる。このように継続的に意見文を書き、継続的に意見文を読むことのできる場は、テーマや学習問題について問い続ける態度だけでなく、自分の考えと他者との比較など自己内対話をすることにもつながる。

≪実践内容≫

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	1、「自然保護のあり方について自分の考えを深め、意見文を書く」という学習課題を確認する。	[ポジショニング機能] 自分の立場をどちらか選択。	・異質な他者を捉えさせるために、今、自分がどちらの立場かを決めさせる。また他の児童がどのような立場をとっているのか視覚的に理解できるようにする。
	2、自然を守るためには①人間は自然に関わるべきではない②人間は自然に関わるべき、のどちらかを選び、理由とともに短作文を書く。	[気づきメモ] 自分の意見と理由を短作文に書く。また、投書したい児童はグループメモに投稿する。	・毎時間短作文を書いていくことで、自分自身の考えの深化を実感することができる。投書は希望制とする。

展 開	3、意見文の説得力を高めるための三角ロジックについて理解する。  4、白神山地について知る。 ・「ブナの森が支える豊かな自然」を読み、白神山地が世界遺産に登録された経緯や、白神山地がつくり出す計り知れない恵みについて知る。 5、資料を読み、白神山地の課題を知る。 ・資料1～7を読み、自然保護にはさまざまな考え方があることを理解する。 6、校内投書や自分の「気づきメモ」をもとに考えを深め、バタフライチャートに整理する。	[発表ノート] 主張、理由、事実（データ）を記入したり、事実となる表やグラフ、引用文といったデータを貼り付けたりしながら整理する。  [気づきメモ] ・資料からわかったことについて、自分の考えを書き、その根拠（資料1～7）を貼り付ける。 [発表ノート] ・「気づきメモ」から必要な文を「発表ノート」に貼り付け、賛成、反対の理由と、さらに強い賛成、強い反対の理由について整理する。  	・事実（データ）と理由付けがあって初めて説得力を高めるための根拠となることを押さえることで、資料やデータの取捨選択が必要であることの理解を促す。 ・単元の中で何度か「ポジショニング」を実施する。単元の途中で立場が変わった児童には、どの資料（友達の投書や教科書の資料等）で自分の意見が変わったのか、インタビューしたり、他の児童に知らせたりする。 ・これまでの投書も参考にするよう指導する。「○○君は～と書いていたけど、私は・・・」のように、引用し、反論することで、お互いの意見や考えが深まっていくことを実感させる。 ・自分がこれまでに書いてきた、「気づきメモ」と「校内投書」を使って、自分の主張を強化していく。また、相手（逆）の立場になって、自分の主張の反対の理由を考える。
ま と め	7、自分の考えをまとめ、意見文を書く。 ・意見文は文集としてまとめる。	[気づきメモ] 文集を読み、短作文を書く。	・振り返りの機会を与えることで、意見文を書いて終わりにするのではなく、その課題に対して今後も考え、問い続けていけるようにする。

≪実践を振り返って≫

本レポートは、平成30年度千葉県長期研修生研究報告「対話を続け意見を育てる意見文指導 ―対話的な場『校内投書』の設定と情報を関係付ける力の育成を通して―」における実践を SKYMENU cloud を活用した実践として再編集したものです。そのため、実際に授業を行った報告ではないことをご容赦願います。

（参考：千葉県総合教育センターHP「教育コンテンツ・データベース『Wakaba』」
https://ap.ice.or.jp/_wakaba2013/_docs/2018/w18-0273/w18-0273.pdf」

「校内投書」という場を作ることは、課題に対する学級の対話性を高めることができるだけでなく、「自分は投書をしなかったけど、友達の投書を読むことで意見文を書く時の参考になった。」と、書くことが苦手な児童への支援としても大きな効果がありました。

しかし、平成３０年度の実践では、教師は児童が書いた短作文を毎時間集めて読み、そして、投書を希望する児童の短作文を縮小コピーして貼り付けて複写し、次の時間に児童に配布するという作業が必要でした。現在は児童一人一人に端末が配備されているので、他者参照や相互評価をすぐに行うことができます。また、「気づきメモ」を活用することで、自分自身の考えの蓄積、意見の深まりを簡単に確認することができ、また、グループメモ機能を使うことで、投書も手軽に行うことができるようになりました。「画面一覧」機能を使うことで、友達のバタフライチャート（構成メモ）や意見文の途中経過を簡単に参照することもできます。

児童一人一人が意見や考えを深め、豊かな意見文として表現できるようになるために、SKYMENU cloud を活用した本実践が少しでも皆さんの役に立てば幸いです。